

# 柘木県現代俳句協会報

No. 174



第一七四号

発行所

〒三三七-〇三二五

佐野市吉水駅前一―五―八水口方

柘木県現代俳句協会

発行人

中井洋子

編集人

松本登子

令和六年六月一日発行

## 第六十九回俳句研究会

令和六年四月九日(火)  
小山市立生涯学習センター

## 初めての俳句研究会

高田栄子

四月九日(火)、吟行句会に初めて参加しました。

私が生まれ育ち、住んでいる小山市が、どのような句にされるのか楽しみだったのです。

吟行地は、小山市役所周辺、須賀神社、城山公園です。

当日はあいにくの止みそうにない雨と強い風。句作は全天候可と言いますが、私は晴れて欲しかったです。雨靴に透명한傘で出かけました。

満開の桜は雨に溶け恐ろしいほどに綺麗。

麗。思川の堤防からは北西に、残雪の日光連山が見えるはず。でも残念ながら雨に視界を遮られ、遠景の句は断念。桜は類想しか浮かばず、これも無理。市庁舎の片隅で四苦八苦。時間の把握が甘かったです。

投句締切は午後一時。一人三句です。

午後一時半から句会開始。和田名誉会長、中井会長、特別選者四名のご挨拶のあと選句に進みます。その間を縫っての、支部担当者を中心にした清記から印刷までの手際の良さは目を見張るものでした。



当日は二十三名参加。六十九句より各自五句を選句。桜と雨の句が半数を占め、選ぶのが難しかったです。

その後披露があり、特別選者六名の方々の選評・鑑賞は素晴らしく納得のいくもので、大変勉強になりました。

全員が同じ場所を吟行し句作するのは、目先が変わり、熟練の方々の視線がとても参考になりました。緊張しましたが刺激的な一日を送ることができました。

◆特選賞

和田 浩一 選

静止せし地機しじしたに桜色の糸

佐々木輝美

中井 洋子 選

花の雨かくも暗くて甘いとは

高田栄子

石倉 夏生 選

花の雨かくも暗くて甘いとは

高田栄子

須藤火珠男 選

びしよぬれの魂かかえ桜の木

水口圭子

中村 克子 選

ぎおんばし渡り遠き日のぶらんこ

遊座純子

水口 圭子 選

思川桜に乱世の風吹き来る

中井洋子

◆最高点句

びしよぬれの魂かかえ桜の木

水口圭子

◆その他の作品（順不同）

桜堤どこまで万歩目の足裏

和田浩一

雨を透かして白熱の桜見ゆ

石倉夏生

花の雨七福弁天妙建寺

須藤火珠男

桜満開老いを一日のばしけり

中村克子

花三分弓道場の若き声

和田璋子

人集いおれば雨の色に咲く桜

北島洋子

皆で来て一人ひとりに桜散る

戸田富美子

春光や櫛くしの肌化石めき

中村國司

地虫出ず森閑という時を曳き

山野井朝香

桜どきいつも橋が少し伸び

増山ちさ

ドアを開ければ春田の匂ひ両毛線

鯉沼桂子

雨の歌雨にうたえばチューリップ

松本登子

花の雨ずしりと「小山評定」碑

小杉栄美子

小山駅を迂回して吹く木の芽風

中田陽子

C50の車輪錆び付き飛花落下

橋本尚子

蕊降るや庁舎の広きエコガラス

滝澤良恵

胴吹きたねの桜は喃語はなしそう

綱川羽音

桜蕊降るハイヒールでは歩けない

早乙女説子



栃木市文化活動協議会「活動交流会」の開催

水口 圭子

二月十七日(土)と十八日(日)、とちぎ岩下の新生姜ホールに於いて、栃木市文化活動協議会設立十周年記念「活動交流会」が開催されました。栃木県現代

俳句協会は、栃木市俳句協会との合同により展示部門に参加し、色紙短冊を展示致しました。

一人一点で合計三十点ほどが集まり、会員によって約4mの幅の壁面に二段に飾り付けられました。額は各自の持ち寄りなので形も色も様々、それが却って変化に富み、趣のある雰囲気で見応えのある展示となりました。

交流会は、栃木市内の各地区文化団体から、吉屋信子記念会、書道、木彫、陶芸、絵手紙、手芸など数多くの作品が一堂に集まり、お互いの刺激ともなり、大変活気がありました。

◇現代俳句協会三十年永年会員として

水口圭子さんが顕彰されました。

おめでとーございませう。

生命線

水口圭子

逃げ水のしづきハーレーダビットソン

さびしさの分だけ折られ紙雛

草取りをするたび伸びる生命線

ポピー一面ボレロの浮遊感

にんげんの影の重なる爆心地

秋風やいずこの橋も人待てり

帰りにには月光の乗るサイドカー

冬銀河呼び寄す小澤征爾の手

64 第61回現代俳句全国大会

作品募集

投句締切は  
7月31日(必着)



現代俳句全国大会は、年に一度、現代俳句協会が主催して行う伝統のある大会です。協会員に限らずどなたでも参加できますから、例年にも増してたくさんのご応募をお待ちしております。また、投句料の一部を能登半島地産の復興支援として寄付いたします。

- 応募規定 3句1組・2千円 何組でも可。ただし、新作未発表作品に限る。(3組9句同時投句に限り、6千円を5千円にいたします)
- 前書き不可。所定用紙使用又はWEB。〒、住所、お名前、電話番号、協会員、会員外の別を明記。投句料は普通郵便(必ず定額小為替(無記名)で)、現金書留(必ず作品同封)、又は郵便払込(青い払込取扱票を使用)加入者名。一般社団法人現代俳句協会、振替口座番号・00160-6152603・振替払込受領証のコピーを投句用紙に必ず貼付してください。
- 送付先 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-1-4 信楽ビル外神田7階  
一般社団法人 現代俳句協会全国大会係  
☎03-38339181 90
- 締切 7月31日必着
- 顕彰 協会の会員誌「現代俳句」に優秀作品を発表するほか、協会刊行物に採録。
- 賞 大会賞、後援団体賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作。
- 全国大会  
令和6年11月16日(土)午後一時より  
「ホテル日航奈良」  
〒630-0122 奈良県奈良市三条本町8-1-1  
☎0742-351883
- 記念講演 坪内稔典氏「俳句の未来」
- 講師 高野ムツオ会長はじめ協会幹部
- 懇親会 午後5時より(会費8千円)

※次号175号の原稿締切りは7月22日です。

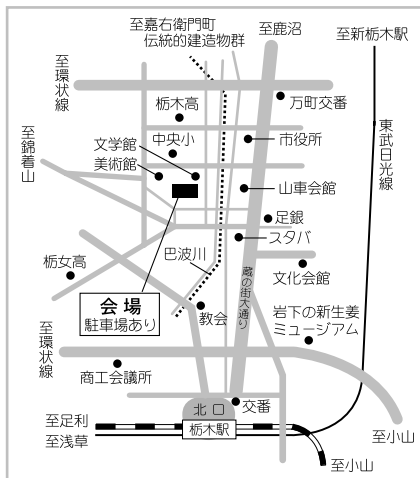
## 第70回 俳句研究会のご案内

- ☆期 日 令和6年9月18日(木)
- ☆会 場 きららの杜とちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）  
〒328-0016 栃木市入舟町6-8 TEL0282-24-0352
- ☆吟行地 市内散策
- ☆投句締切 12時 囑目3句（投句と同時に受付）
- ☆昼 食 各自
- ☆講 話 13時～14時  
「栃木県現代俳句協会の裏話」 講師 和田 浩一
- ☆句 会 14時～16時
- ☆通信句会顕彰 16時～16時15分
- ☆会 費 500円

※通信句会の顕彰を行いますので、特別選者の方は染筆1点をご持参願います。

※熱中症対策、感染症対策を各自よろしくお願いいたします。

第一事業部 増山ちさ  
TEL0282-27-1451  
栃木支部 佐々木輝美  
TEL0282-24-6775



### ◇新入会員紹介

・齋藤弘子（宇都宮市）推薦者 中井洋子

轉りに了解ですと返答す

おのおのの好みのポール野に遊ぶ  
春泥を去けて深みにはまりたる

・早乙女説子（栃木市）推薦者 中井洋子

秋立ちぬ俳句流るゝ我が血管

小鳥来る唾唾尋ねたき海のこと  
ひらがなの秋の日差しと違う恋

### ◇お知らせ

・龍 太一

公益社団法人『日本文藝家協会』入会記念

評論集「俳句に於ける著作権の研究」出版

・江口 悠

俳号が「悠」に変更になりました。

### ※第二回役員会開催のお知らせ

・七月十八日(木) 午後一時～

・きららの杜とちぎ蔵の街楽習館

（栃木市市民交流センター）

※第一回役員会・支部長会議は、

二月二十二日(木)、きららの杜とちぎ蔵

の街楽習館（栃木市市民交流センター）

にて開催されました。